広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2024年（令和６年）
11月１日　発行
11
No.1117
November 2024

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和６年９月末現在
男　15,346人
女　15,210人
総人口　30,556人
世帯数　13,570世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎0800－800－8848
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

メス　　オス

里山に育む生きものたち

№148　スズガモ

学名　*Aythya marila*

写真・文　仲田　立

▼スズガモ（鈴鴨）とは

飛翔時の羽音が鈴の音に似ていることから、和名で「スズガモ」といわれます。冬鳥として全国に渡来し、海ガモの仲間で渡来数が最も多いとされます。海水域を好み潜水して貝類などを食べます。

雄は、脇と腹が白く、頭部は黒緑色で光沢があり、背は淡い灰色で波状斑があります。雌は、頭部から胸が茶色で、くちばしの基部にある白斑が目立ちます。雌は、涸沼で多く見られるキンクロハジロの雌によく似ていて、単独でいるときの識別は難しいです。

▼スズガモの餌

スズガモの餌は、貝類や海藻類などです。涸沼に棲むヤマトシジミも食べます。しかし、だからと言ってシジミにとって害があるというわけではありません。論文によって、スズガモがシジミ類を食べることによってシジミ類の増えすぎを防ぎ、汽水域などの閉鎖水域において水変わりなどを防ぐ〝間引き〟の役割もあり、漁業資源の保全に有益であると報告されています。（岡奈理子、２０００年）

▼スズガモの数

スズガモは、涸沼で最も多いカモ類です。ここ３年、11月から２月の間で、多い時には１万羽ほどが見られます。極東ロシアから飛来し、10月下旬から３月まで大きな群れが見られ、場所は茨城町の中石崎と鉾田市箕輪の中間地点が多いです。堤防上から楕円形に見える群れの様子は圧巻です。

残念ながら、毎冬に涸沼に飛来していたオジロワシやオオワシが、勇壮に大空を舞う姿は見られなくなりました。しかし、ラムサール条約湿地の条件であるスズガモの個体数が世界の１％（５０００羽）以上という基準は満たされています。再び、オオワシなどが飛来する可能性もあると思います。

涸沼の自然が保たれて、ラムサール条約湿地としての要件を末永く満たし続けて行くことを願っています。

スズガモの群れ（網掛公園より撮影）

ちびっ子アート　ウィステリアナーサリースクール

「おいしいパイナップルとスイカ」
かとう　ゆい（５歳）

「ホオジロザメ」
かみなが　ゆうすけ（6歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています